

10月11日は「マンドリンの日」

CMF

Circolo Mandolinistico Flora

第
57
回

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ

定期演奏会

2022年9月10日(土)

開場 13:30 / 開演 14:00

日立システムズホール仙台
(仙台市青年文化センター)
シアターホール

主催 ◆ チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ

後援 ◆ 公益財団法人 仙台市市民文化事業団 河北新報社 TBC東北放送 公益社団法人 宮城県芸術協会 仙台日伊協会
一般社団法人 日本マンドリン連盟

第57回定期演奏会によせて

本日は私共の第57回定期演奏会にご来場いただきありがとうございます。当楽団は昭和40年の創設来、年一度の定期演奏会を重ねてまいりましたが、この間一度も中断することなく今回で57回目を迎えることができ、延べ1000曲もの曲を演奏してきました。私たちは、日本のマンドリン界ではあまり取り上げることの少ない曲を選曲し、紹介しております。その中には、世界初演、日本初演の曲も少なからずあり、レパートリーの拡大を図ってまいりました。

今回のプログラムにはこれまで紹介した曲を含め、ジェノヴァの「リズベリオ・マンドリン合奏団」、フェルラーラの「ジーノ・ネリ マンドリンオーケストラ」の指揮者S.スカルツィーナ氏から贈られた曲、そして世界的なマンドリンの大家、中野二郎氏生誕120年を記念して、氏の作品を演奏します。

本日のステージに大阪の「アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ」の皆様と、名古屋の「プレットロ ロマンティコ」有志の皆様、関西でご活躍中の東野隆行氏をお迎えして合同演奏を行います。葛原睦子氏主宰のフィオーレ様とは2008年来交流があり、2011年にはイタリア3都市公演をご一緒するなど絆を深めてまいりました。また、中野二郎氏が主宰しておられた「プレットロ・ロマンティコ」の皆様ともに親戚のような交流が続いています。この合同ステージは、本来は2019年開催予定でしたが、コロナ禍のため延期となり、やっと実現の運びとなりました。

お楽しみいただければ幸いに存じます。

主宰 高橋 五郎

プロフィール

◆アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ

1986年、大阪樟蔭女子大学マンドリンクラブの卒業生有志により結成。

大阪を中心に幅広く演奏活動を展開。過去16回（2年に1回）の定期演奏会をはじめ、日本マンドリン連盟主催の演奏会や各方面のサロンコンサートなどに多数出演。音の美しさと豊かな表現力には定評がある。特にイタリアのマンドリン古典曲を演奏の主体としている。



◆中野二郎

1902年愛知県生まれ。演奏家、作曲家、研究家、教育者として日本のみならず世界的なマンドリン、ギター界の発展に大きく貢献した。童謡も数多く作曲し、NHKラジオの子ども番組の歌など約550曲にのぼる。1937年に発売した童謡「一茶さん」は大ヒットした。45年からはNHK名古屋放送管弦楽団の専属指揮者として活躍した。1969年、プレットロ・ロマンティコを発足。2000年に98歳で逝去する直前まで指導に尽力した。

◆高橋五郎

12歳よりマンドリンをはじめ。高校時代に木下三郎氏、1964年に田中常彦氏に師事する。1965年、チルコロ・フローラを結成主宰。1970年、初のソロリサイタルを開催。また、1973年ヨーロッパに遊学し、イタリアのニーノ・カタニア氏に師事。公益財団法人 宮城県芸術協会参事、仙台日伊協会理事、一般社団法人日本マンドリン連盟常任理事・会長、東北支部支部長。



プログラム

I チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ

- | | |
|--|---|
| 1. アンダンテ
Andante | グルック/高橋 五郎編
Ch.W.Gluck/Rid.G.Takahashi |
| 2. ミヌエット
Minuette | バッハ/カターニア編
J.S.Bach/Rid.N.Catania |
| 3. シチリアーナ
Siciliana | 作曲者不詳/カターニア編
Ignoto/Rid.N.Catania |
| 4. ミヌエット
Minuette | ミュール/カターニア編
E.N.Mehul/Rid. N.Catania |
| 5. ラルゴ
Largo | ヴェラチーニ/カターニア編
F.M.Veracini/Rid.N.Catania |
| 6. 弦楽と通奏低音のための協奏曲 ト長調RV151
「アラ・ルスティカ (田園風)」
Concerto in Sol maggiore "Alla rustica"
Vivace - Adagio - Allegro | ヴィヴァルディ/スカルツィーナ編
A.Vivaldi/S.Squarzina |

II 合同演奏

【 中野二郎生誕120年記念 】

- | | |
|--|--|
| 7. 海の子守唄 子ども歳時記8月 | 中野 二郎 |
| 8. 丘の教会堂
La Talesia sobre la Colina | 中野 二郎
J.Nakano |
| 9. 静かな夜
Notte Serena | マネンテ/中野 二郎編
G.Manente/Rid. J.Nakano |
| 10. 交響曲「ジェノヴァへ捧ぐ」
[Alla Citta di Genova] Sinfonia in Quattro tempi
Largo Patetico - Allegro non troppo - Andantino
mosso - Allegro con brio | ボッタキアリ
U.Bottacchiaro |

III 合同演奏

- | | |
|--|--|
| 11. 巡視兵のセレナータ
Serenata alla pattuglia | アレグレッティ
C.Allegretti |
| 12. スラブ舞曲第6番
Slawische Tanze No.6 | ドヴォルジャーク/高橋 五郎編
A.Dovřák/Rid. G.Takahashi |
| 13. ナポリっ子の涙
Lacreme Napulitane | ブオンジョヴァンニ/高橋 五郎編
F.Buongiovanni/Rid. G.Takahashi |
| 14. カンタシレーナ
Canta Sirena | カンツォーネメドレー/高橋 五郎編
Canzone Antiche/Rid.G.Takahashi |
| 15. ウクライナの思い出
Souvenir D' Aukraina | フェラリス/ボッチ編
A.Ferraris/Rid.A.Bocchi |

主な曲目解説

◆弦楽と通奏低音のための協奏曲 ト長調 RV151

「アラ・ルスティカ(田園風)」

ヴィヴァルディが通奏低音を伴う弦楽合奏のために書いた作品は“協奏曲”“シンフォニア”“ソナタ”等様々だが、ほぼ全てが3部構成 (allegro-adagio-allegro) で作られている。

編曲者のS. スカルツィーナは1966年イタリアのトレスィガッロ (フェッラーラ) に生まれ、G. フレスコバルディ音楽院でオーボエを専攻した1990年より作曲に没頭する一方、ミラノ市立音楽院、G. B マルティーニ音楽院で指揮法を学ぶ。地元フェッラーラのマンドリン合奏団“ジーノ・ネリ”の常任指揮者のほか、オペラ、管弦楽、吹奏楽の指揮者として国際的な活動をしている。チルコロ・フローラとの関わりも深く、2001年、2002年訪伊の時、知己を得、代表作の「C・P・Oラプソディ」が贈られた。その後2004年来日時などの折り、自作品や編曲作品が贈られた。

◆海の子守唄 子ども歳時記8月

中野二郎氏は生涯に720曲ほどの作品を残しているが、マンドリンやギターの作品は77曲で大半は子ども向けの唄である。特に1955年から1957年までの2年間で200曲以上の曲を書いている。これは中野氏がNHK名古屋放送交響楽団の指揮者を務め、その中で子どもの番組に「歌の花かご」があり、1ヶ月に7~8曲をそのために書いた。その中から「これは」と思うものから季節を追って「子ども歳時記」と名付けられた。「海の子守唄」は8月の唄で、氏が小学3年の頃過ごした三河の漁村のイメージを表現している。

◆丘の教会堂

本曲は1933年、ギター独奏曲として作曲されたが、1939年、マンドリン五重奏曲として、澤口忠左衛門主宰の「仙台アルモニア」で出版された。

この曲は、静かに敬虔なクリスマスを迎える日の近い、教会の風景。粉雪の降る教会堂で賛美歌の練習に余念のない有様を思って頂けばよい。中程で弱かるべきところを強く歌ってピアノシモで歌いなおすところは、意識的にそうしたもので誤りではない。

(中野二郎著「いる・ぶれっとろ」より)

◆静かな夜

マネンテ (1866~1941) はイタリアのローマで活動した作曲家で吹奏楽、交響楽、ピアノ曲、マンドリン曲など幅広い作品を残した。

編曲の中野二郎氏は1940年、マネンテと度々文通を交わし、作品を贈られたが、マネンテは1941年亡くなっていた。

中野氏によると、本曲は1908年以前、マンドリン独奏曲として書かれた作品で、曲想極めて美しく、マンドリンの本領ともいえるべきロマンの色濃い作品。マンドリン関係の代表作は「メリアの平原に立ちて」「マンドリン芸術」、中野二郎編曲「華燭の祭典」で各地で演奏されている。

◆交響曲「ジェノヴァへ捧ぐ」

作者ポッタキアリ（1879～1944）はイタリアの作曲家。工業高校卒業後、当時の大作曲家マスカーニの指導下の音楽学校に入り、和声、フーガ、作曲を学ぶ。交響曲、吹奏楽、オペラ等の作品が出版される。ルッカでA.カペレッティの後を継いでコモのマンダリン合奏団《フローラ》の指揮者となる。また、ローニャで出版されていたマンダリン機関紙イル・コンチェルトの主幹となり数多くのマンダリン曲を発表するなどマンダリン界に貢献した。本曲は、1905年の作曲コンクールで第1位を獲得したものであるが、なぜか出版されなかったために半ば忘れられた作品であった。マンダリニストの石村隆行氏がイタリアで調査した際に発見し、日本マンダリン界のレパートリーとして定着したが、最近になって埼玉県にあるマンダリン音楽資料館で整理中の市毛譜庫から楽譜が発見され、関係者を驚かせている。ロマンティックなメロディーを自由に展開させ、ポッタキアリならではの音楽の世界を強く感じる。

◆ウクライナの思い出

作者フェラリスについての経歴は不明であるが、イギリスの音楽著作権協会「United Kingdom」に登録された作曲家で、1968年に没している。

本曲は、私が1973年の遊学の際、中部イタリアのシエナ市において、作曲家・指揮者として活動していたアルベルト・ボッチ氏より贈られたものである。本曲は単純な構成であるが、情熱的なリズムと哀愁に満ちたメロディーは民族色を感じさせる。

編曲者のボッチ氏は、戦前からマンダリン界では著名で、戦後も活動を行い衰微の一途にあるイタリアマンダリンの伝統を守り続けた。ボッチ氏によると、フェラリスと交流があったようで、本曲は彼より贈られたものをマンダリン合奏に編曲したものだという。

（高橋五郎解説）

演奏会終了後の退席についてのお願い

演奏会終了後は密を避けるために時間差での退席をお願いします。

お時間に余裕のある方はしばらくお待ちになってから、混雑を避けて退席をお願いします。

皆様のご協力をお願いいたします。



出演者

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ

指揮者：高橋 五郎

第1マンドリン：大槻 光夫 大森 克之 小坂千代子 菅原 由里 成川 真優

松本マスミ 村山 真子 小杉 公美(賛助出演) 東野 隆行(賛助出演)

第2マンドリン：土屋 瑞枝 大槻 省子 大沼 芳枝 加茂 妙 中澤 祐子

西川 美穂 松野美由紀 宮本 房江 西 文恵(賛助出演)

マンドラテノーレ：相澤 徹 相原 進 菊地 美里 鈴木 昭子 高野佐和子

高橋 洋子

マンドロンチェロ：三浦 園子 村山 滋

ギター：鈴木静一郎 大内 寿彦 加藤ひろ美 松本 道子

アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ

第1マンドリン：葛原 睦子 吉本 和子 大西 裕子 尾崎あやか

第2マンドリン：吉田 昌美 仲村 永江

マンドラテノーレ：坂井 章子 西本 照子 榎 博美(豊中シティ マンドリンアンサンブル)

マンドロンチェロ：持田由起子 河野久美子

ギター：辻 玉実 市川 珠代 福本真理子

コントラバス：種池 美穂

プレットロ・ロマンティコ

第1マンドリン：渡辺 充子

マンドローネ：世古口有司

アナウンス：長野 淳子
